育心

発行責任者：秦野市教育研究所長　柏木　荘一
発行日：平成26年11月7日（金）
〈秦野市教育研究所〉
住所：秦野市桜町 1-3-2　　電話：0463-81-2125
e-mail：k-kenkyu@city.hadano.kanagawa.jp
URL：http://www.city.hadano.kanagawa.jp/k-kenkyu/kenkyu.html

平成 26 年度　教育研究所　研究部会

今年度は４部会２０名の研究員により研究活動を進めています。昨年に引き続き、各研究部会では幼小中一貫教育を見据え、そのあり方に迫る研究内容がテーマとして掲げられています。

研究概要や研究員については次のとおりです。（敬称略）

小中一貫教育（算数・数学）研究部会（１年間）

・永瀬　典子　（大根小）
・栗原　依里　（広畑小）
・長谷部　朗彦（渋沢中）
・小藪　大介　（大根中）

算数・数学について、小中学校の教育課程における連続性・系統性を研究するとともに、小中一貫を見通した補助教材（フリプリ）についての研究を進めます。今年度は、シリーズ５集目となる「資料の活用」領域編を作成します。

幼小中一貫教育（保健体育）研究部会（１年間）

・三嶽　さち子（東幼）
・安藤　淳　　（東小）
・松井　丈博　（鶴巻小）
・川嶋　直人　（東中）
・永井　淳平　（南が丘中）

体育・保健体育科における、ボールゲーム・ボール運動、球技の領域（ゴール型）について、幼小中学校の教育課程の連続性・系統性を研究するとともに、「幼から小」「小から中」の接続期を意識した指導のあり方について、参考となる資料の作成を進めます。

小中一貫教育（地域・郷土）研究部会（２年間のうちの１年目）

・和田　香織（末広小）　・上田　智美（南が丘小）　・添田　士郎（西小）
・三輪　哲也（本町中）　・佐藤　雄彦（南中）　・三嶽　雅彦（鶴巻中）

小中一貫を見通し、秦野の地域・郷土について研究し、「秦野ふるさとめぐり」について内容を最新のものに改訂するとともに、二宮尊徳の教えを子どもたちが学ぶための冊子を作成します。

小中一貫教育（社会科）研究部会（２年間のうちの２年目）

・長町　彬子（南小）　・鍔本　昌実（鶴巻小）
・山本　裕美（本町小）・中村　雅子（西中）
・古木　学　（渋沢中）

小中一貫教育社会科資料集「私たちの秦野」についてデータや図等を最新のものに改訂するため、研究を進めます。

研究の成果をぜひご活用ください

平成25年度刊行　研究紀要・自主研究レポート

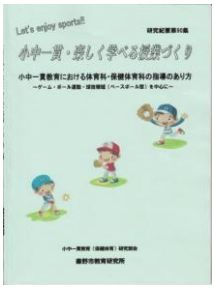
第 89 集　『自覚的・意識的にキャリア教育を創る　～これまでの実践と総合的な学習の時間を中心とした教育活動からキャリア教育を考える～　』

小中一貫キャリア教育研究部会

「キャリア教育とは何か？」を足掛かりに、意識的に日々の教育活動の中でキャリア教育を実践していく指導のあり方についての資料をまとめました。具体的には、市内の各小中学校における主に「総合的な学習の時間」の実践を取り上げ、それぞれの実践についてキャリア教育との関連を整理し、さらに小中一貫の視点も踏まえ、今後どのように展開していくことが望まれるかを考察しました。「生きる力」を育む手立ての一つとしても、近年その推進が求められるキャリア教育について、実践に向けた参考資料として役立てていただければと思います。

第 90 集　『Let's enjoy sports!!　楽しく学べる授業づくり　小中一貫教育における体育科・保健体育科の指導のあり方　～ゲーム・ボール運動・球技領域（ベースボール型）を中心に～　』

小中一貫教育（保健体育）研究部会



体育科・保健体育科についての研究紀要『小中一貫・楽しく学べる授業づくり』の第２弾です。前年度の「ネット型」に続き、「ベースボール型」を扱いました。「ベースボール型」における小・中の連続性を意識した単元計画作成や授業づくりのポイント、さらに小・中の研究員の授業実践をもとに、基本技術の習得に向けた「ドリルゲーム」や学習目的に応じた「タスクゲーム」の工夫例が多く示されています。発達の段階に応じて「何を学ばせるか」を明確にした授業づくりが、子どもたちの運動の楽しさや喜びにつながります。ぜひ参考にしてみてください。

第 91 集　『フリプリ－算数・数学振り返りプリント集－　～ 図形領域「空間図形」編～　』

小中一貫教育（算数・数学）研究部会

「フリプリ」とは振り返ることのできるプリントの愛称です。本研究部会では、これまで小中一貫を見通した補助教材づくりを進めてきました。『現場にいる先生方が本当に利用できるようなもの』をというコンセプトのもとに、『計算領域編』『関数領域編』『図形領域「平面図形」編』に続き、第４弾『図形領域「空間図形」編』を作成しました。各プリントは小学校・中学校ともに、１時間の授業を振り返る際に利用できる内容と量になっています。右ページには解答が載り、また学習につまづいたときに、どこへ戻って復習すればよいかが示されているので、各自のペースで取り組み、振り返ることができます。CD-ROM 版も各小中学校に送付してありますので、併せてご活用ください。また秦野市教育研究所のホームページからも利用できます。

第 92 集　『子どもの命を守る防災教育　～実践活用編～　』

幼小中一貫防災教育研究部会

平成 24 年度にまとめた研究紀要第 88 集を実践活用編として発展させました。新たな活動案だけでなく、幼稚園・小学校・中学校で行った実践事例も掲載することで、授業者が活動内容を想像しやすいような工夫をしました。また、発達段階に合わせた防災教育年間指導計画を、すぐに使えるように例として載せました。各学校の実態や教科等年間指導計画、関連行事に応じて変更できるようにしてあります。

第 93 集　『Let's Chat with Friends!　～チョット　Chat　しよう！～　』

小中一貫教育外国語研究部会

小中一貫教育外国語研究部会では、小学校高学年の外国語活動から中学校の英語科へ通じるコミュニケーション活動の一環として、短い時間を使った会話活動（チャット）を取り入れた活動例をまとめ研究紀要を作成しました。一つのテーマに沿った会話を少しずつ広げることで、子どもたちの自信につなげていきたいと考えました。

また付録として、手軽に教室で使えるクラスルーム・イングリッシュのカードを作成し、小中の円滑な接続のための手立てを研究しました。小中共通のクラスルームイングリッシュを使うことで、子どもたちが安心して次のステップに進めるのではないかと思います。多くの先生方に教室で活用していただければ幸いです。

自主研究レポート集　３０『探究』

１ 幼稚園から小学校へつながる力 －「伝え合うこと」で広がる学び－

東幼稚園　川名絵梨香　教諭

２ 地域リソースを活用し「実感を伴った理解」の獲得を図る理科授業

－『流れる水のはたらき』及び『大地のつくりと変化』における取組み－

南が丘小学校　久本卓人　教諭

３ 地名情報の活用によるシビックプライドの醸成 －神奈川県秦野市を例に－

教育委員会生涯学習課文化財班臨時職員　宇田川大介

小学校から同じ中学校区の幼稚園へ人事交流で赴任した先生が、幼稚園で感じたこと、体験したことを率直に表現されています。子どもたちが、日々の生活の中で目を見はる成長を遂げていく様子を目の当たりにし、小学校とのつながりについて、その思いを述べています。また小学校からは、「実感を伴った理解」について深く掘り下げ、子どもたちが生き生きと取り組む理科の授業実践を紹介するレポートが寄せられました。さらに生涯学習の分野では昨年度に引き続き、地名についての貴重な情報、そして「まちづくり」という視点から地名情報を活用することについてヒントをいただきました。

学校における今日的課題に迫る研究成果を報告

～教育セミナー開催～

平成 25 年度の研究成果の報告及び教職員の研修のため、２回の教育セミナーを市役所西庁舎において開催しました。報告を行ったのは防災教育研究部会とキャリア教育研究部会です。それぞれのセミナーにおいて、研究員からの報告の後にはグループに分かれてテーマにそった協議を行いました。以下、それぞれのセミナーの概要についてお伝えします。

第１回教育セミナー

平成 26 年５月２６（月）

幼小中一貫防災教育研究部会

研究紀要第 92 集『子どもの命を守る防災教育～実践活用編～』の研究内容について研究員が発表いたしました。前半は、対象学年を意識しながら写真を使って実践例の紹介を行い、具体的な活動内容を参加者に伝えました。「いろいろな教材があることが分かり、園で活用してみたいと思います。」と参加者からの感想がありました。後半は、参加者がグループとなり、防災教育の活動に取り組みました。実際に活動することで、参加者は防災教育の大切さや実践するコツを学んでいました。

第２回教育セミナー

平成 26 年６月３日（火）

小中一貫キャリア教育研究部会

先にご紹介した、研究紀要第 89 集『自覚的・意識的にキャリア教育を創る』の研究内容についての報告でした。参加者は小中学校の先生方です。主に学校区を単位とした後半のグループ別情報交換では、各学校におけるキャリア教育と結びつく教育活動の事例や、幼小中一貫教育の視点からの連携の重要性などが活発に話し合われました。

探究する楽しさを実感！

～理科教育研修講座～

テーマ ：「授業で活用できる科学実験のアイディア」

講　師 ： JAXA 宇宙教育センターアドバイザー　遠藤　純夫　氏

６月 30 日（月）に、渋沢公民館において理科教育研修講座を開催しました。今回で４年目の開催となり、毎回参加者からは好評の声をいただいている実技中心の研修講座です。今年度は、夏休みのサマースクールなどでも活用してもらえるようにとの意図から、この時期に開催しました。

内容は、科学工作「ホバークラフト」作り、発泡球を用いた月食についての講義などです。「ホバークラフト」作りではどうやったら前に進むか、またスピードが上がるかなどを参加者どうしで相談し合い、教え合いながら熱心に製作する姿が見られました。「うなくいかない」ことが工夫の必要を生むという、科学が進歩する要素の一端が垣間見られたように感じられ、有意義な研修講座となりました。

大勢に参加していただきました　～平成 26 年度夏季休業中の研修講座～

「困難は分割せよ」

公開講座
7月28日（月）　堀川公民館大会議室

テーマ：子どもたちに伝えたい！防災力向上の実践講座
講　師：防災教育コンサルタント　宮﨑　賢哉　氏

好評だった平成２５年度防災教育研修講座で講師をしていただいた宮﨑氏に、今年度は教員だけでなく、市民も対象にした講座をお願いいたしました。子どもたちへ伝えたいポイントをおさえながら、学校だけでなく一般生活に活用できるような地震対策や避難所の実態を紹介いただきました。参加者は、準備しておくべき防災グッズを選ぶ演習や、非常時における心の健康を考える演習を体験することができました。

最後、まとめでは「災害対応の『困難』は細かく分割し、できることからはじめましょう。」というご示唆を講師からいただきました。子どもたちの自主性、自発性を大切にしながら、できることからはじめるよう促していくことが肝心であるようです。

「情報モラル」=「日常のモラル」

情報モラル研修会
7月30日（水）文化会館第１会議室

テーマ：インターネット世界の子どもたちーその実態についてー
講　師：グリー株式会社　小木曽　健　氏

SNS の話題を中心に、些細な気持ちによる誤った使い方が一生を台無しにしてしまうインターネット世界の恐ろしさについて、具体的な事例やわかりやすいたとえを通して学びました。一方で、インターネットの良さについても十分にふれられ、「情報（ネット）モラル」とは特別なことではなく、日常のモラルと同じであるという認識をもつことの必要性が強調されていました。アンケートには、児童・生徒はもちろん、いろいろな立場の人に聞いてほしいという感想が多く寄せられました。

電子黒板を使ってみよう

ICT活用研修会
7月30日（水）文化会館第１会議室

テーマ：電子黒板を使用した授業づくり
講　師：学校法人武南学園　武南中学校　　池田　佑介　教諭
　　株式会社日立ソリューションズ　　郷　かをり　氏

昨年度までに市内の全小中学校に設置された電子黒板機能付きプロジクターの活用の仕方についての研修会を開催しました。前半は日立ソリューションズの方による機器操作についての研修、そして後半は普段から授業で電子黒板を使用している武南中学校の池田先生より、模擬授業の形式で具体的な活用事例についてのお話をいただきました。その中で、授業で電子黒板を活用する第一歩として、「書画カメラ」と併せて使用することや、動画ファイルを使用することなどが紹介されました。最後には数人ずつのグループに分かれ、実際に機器を操作していただきました。

求められる教師の姿勢

環境教育研究講座
8月18日（月）市役所西庁舎3階会議室

テーマ：幼児期から系統立てて取り組む環境活動
講　師：国立教育政策研究所　五島　政一　氏

各園校における「エコキッズはだの」の実施を踏まえ、先生方への環境教育への理解を深めることを目的として開催した研修講座です。環境教育を捉える大きな枠組みとしての「ESD」についての解説や、環境教育の実践例などを話していただきました。教師の姿勢の重要性など、五島先生自身の教師としての経験から熱く語られた内容は、参加された多くの先生方に響いたようです。

秦野市の幼小中一貫教育

幼小中一貫教育発表会
8月19日（火）　総合体育館サブアリーナ

・各中学校区語り合う集いの報告（発表者：教育指導課 指導主事）
・モデル研究委託中学校区（東中学校区）の経過報告（発表者：東小学校 内山浩 総括教諭）
・講演「秦野市における幼小中一貫教育の取組について」
（講師：早稲田大学教授 小林宏己 氏）

秦野市では平成 23 年度から全市的に幼小中一貫教育の研究に取り組んできました。全中学校区に研究を委託し、幼小中の一貫性ある教育活動等について研究を進めてきました。東中学校区には平成 25 年度から 27 年度の 3 年間、モデル研究を委託し、より良い保育・授業のあり方等について研究を進めていただいております。

今年度は７月までに各中学校区ごと「幼小中一貫教育を語り合うつどい」を開催し、これまでの取組について、地域の皆様、保護者の皆様と共有を図りました。さらに９０名もの参加をいただいて、市全体の発表会を開催することができました。

自治会関係者の方からは、「東中学校区の幼小中一貫教育が、それぞれの行事で自然の流れの中で構えることなく行われている点に感心しました」という感想をいただきました。また PTA 関係の方からは、「先生方は忙しいと思いますが、交流、情報交換など続けていっていただきたいです」というお声がありました。先生方からも「幼小中一貫教育を地域と協力し、共に育てていくことの大切さを感じ、自園・自校の活動を見直していきたい」等、たくさんの感想をいただきました。

東中学校区の研究中間報告、講師の小林先生からの授業研究に対する投げかけを真摯に受け止め、これからの秦野市の方向性、各中学校区の目指すものを考えるための大きなヒントとして、研究を深めていきたいと思いました。

多くの子どもに運動の楽しさを

保健体育研修講座
8月22日（金）　鶴巻中学校

テーマ：幼小中一貫教育における体育科・保健体育科の指導のあり方について
～ボールゲーム、ボール運動・球技の領域（ゴール型）を中心に～
講　師：早稲田大学スポーツ科学学術院准教授　吉永　武史　氏

今年で３回目を迎える早稲田大学の吉永先生による研修講座です。今回は幼稚園・こども園の先生方にも参加していただきました。前半は運動を行う意味や「ゴール型ゲーム」の授業づくりについての講義、後半は実際に体を動かし、授業づくりのポイントを確認しながらの実技研修を行いました。暑い中での研修講座でしたが、先生方自らが運動する楽しさを実感している様子が伝わってきました。

さまざまな分野を一堂に

教育研究発表会
8月25日（月）文化会館小ホール

発表	テーマ	発表者・補助者
1	「Let’s enjoy sports!!小中一貫・楽しく学べる授業づくり」の活用について	田中　彩弓　教諭（末広小） 菅原　悠太　教諭（北小）
2	「Let’s Chat with Friends!」の活用について	綾部　祐子　教諭（渋沢小） 伊東　洋美　教諭（末広小） 名取　功　教諭（本町中）
3	「幼稚園から小学校へつながる力」－「伝え合うこと」で広がる学び－	川名　絵梨香　教諭（東幼）
4	「地域リソースを活用し『実感を伴った理解』の獲得を図る理科授業」 -『流れる水のはたらき』及び『大地のつくりと変化』における取組み-	久本　卓人　指導担当主事（県立総合教育センター）
5	「鶴巻中学校区子どもを育む会」の取組みについて	佐久間　島昭　総括教諭（鶴巻中）

教育研究所の最大の事業である「教育研究発表会」が、３３０名の参加を得て開催されました。

まず、平成 25 年度の研究員より、保健体育研究部会と外国語研究部会で作成した紀要の内容を中心に、教科における小中の接続についての発表が行われました。「分かりやすい発表で、各取組はとても参考になりました。また、子ども達の学びの姿をしっかりとらえ、何が必要かを見ぬいて援助をすることの大切さを再認識しました」との感想をいただきました。

次に自主研究レポート執筆者より、発表をいただきました。参加者からは「小学校教諭が、こんなにも丁寧に子どもとかかわり、保育を分析し、保育を展開している。小学校教育の前倒し教育でなくて、子どもの発達に応じた、よりそった保育実践はすばらしいと感じた」「先生のきめ細かい教材研究・教材準備など、すばらしい実践で感動しました。２学期のスタートを前に、やる気と刺激を受けました」などのお声がありました。

最後に、鶴巻中学校区の子どもを育む懇談会より、取組の紹介がありました。他の中学校区でも参考となるさまざまな取組がありました。「真摯に取り組む姿勢、過程、成果に心動かされ、色々な面で参考になり、刺激になっています」という嬉しい感想もありました。皆様から頂いた感想、意見を今後の参考にし、より良い発表会を継続していきたいと考えております。